

未来へのメッセージ

南アルプス国立公園が50周年を迎えたことを契機に、これまでの50年を振り返るとともに、これからの南アルプスに思いをはせつつ、記念事業実行委員会の各委員による「未来へのメッセージ」を取りまとめました。また、南アルプス国立公園に縁の深い方々からもメッセージをいただきましたのであわせてご紹介します。

— 実行委員 —

● 山梨県知事	後藤 齋
● 長野県知事	阿部 守一
● 静岡県知事	川勝 平太
● 韮崎市長	内藤 久夫
● 南アルプス市長	中込 博文
● 北杜市長	白倉 政司
● 早川町長	辻 一幸
● 飯田市長	牧野 光朗
● 伊那市長	白鳥 孝
● 富士見町長	小林 一彦
● 大鹿村長	柳島 貞康
● 静岡市長	田辺 信宏
● 川根本町長	鈴木 敏夫
● 関東地方環境事務所長	上杉 哲郎

— Special Thanks —

● 伊那市創造館長	捧 剛太 (南アルプス国立公園指定50周年ロゴ作成者)
● 南アルプス芦安山岳館長	塩沢 久仙 (自然公園指導員)
● 静岡大学大学院理学研究科・特任教授	増澤 武弘 (南アルプス国立公園関係功労者特別表彰 受賞者)
● 南アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 救助隊長	西村 和美 (平成26年度自然公園関係功労者環境大臣表彰 受賞者)
● 元 環境庁官房審議官	瀬田 信哉 (初代南アルプス自然保護官)

山梨県知事メッセージ

山梨県知事 後藤 齋



私たちのふるさと山梨は、周囲を富士山や南アルプス、八ヶ岳、関東山地等の高山に囲まれた内陸県です。その中でも南アルプスは、3,000メートル級の山々が連なる急峻で美しい我が国有数の山岳地帯であり、私たちは南アルプスの山々に守られるとともに、流れ出る清らかな水や深い森が生み出す豊かな恵みを受けて古来より暮らしてきました。どっしりと西に聳え、青葉の春、深緑の夏、彩り豊かな秋、雪を抱く冬、四季折々に表情を変えるその姿は、私たちの心に潤を与えてくれています。多くの皆様の参加をいただいた国立公園指定50周年を記念する様々なイベントは、こうした南アルプスの自然の恵みを再認識し、未来へと伝える絶好の機会となったと考えています。

また、昨年は、50周年の節目の年を更に盛り上げる出来事がありました。南アルプスのユネスコエコパーク登録です。生物多様性に富んだ自然環境とそこに根付いた特色のある生活文化の価値が国際的に認められた大変喜ばしいニュースであり、長年にわたり、熱心に取り組んで来られた地元自治体や関係者の御尽力が報われた瞬間でもありました。今後は、古来から引き継がれてきた貴重な自然環境の保全を図ることはもちろんのこと、自然と調和した持続可能な利活用の推進を図ることが期待されます。

山梨県では、開発行為の抑制等による自然環境の保全対策やニホンジカの被害対策等を継続するとともに、環境教育等、自然と人との共生のための取り組みを国や長野県、静岡県と連携を図りながら、更に進めて参りたいと考えております。

私たちの暮らしを守り、豊かにする南アルプスの恵みを将来へと引き継ぎ、その価値を一層高めていくため、皆様と力を合わせて歩いていく所存です。

山梨県基礎データ

緯度	北緯：35度 39分 50秒
経度	東経：138度 34分 06秒
県面積	4,465.37 平方 km
南アルプス国立公園の面積	18,286ha
年間平均気温	15.4℃
年間降水量	939mm
年間日照時間	2,462 時間
人口総数	840,139 人 (平成 26 年 10 月 1 日現在)
世帯数	332,966 世帯 (平成 26 年 10 月 1 日現在)

※緯度・経度は県庁所在地における数値

県紹介

山梨県は、東京圏のすぐ隣にありながら、県土の約 78% を森林が占め、富士山をはじめとする豊かな自然環境に恵まれています。豊富な水と太陽の恵みが育んださまざまな農産物、ワインやジュエリーなど、優れた県産品が「やまなしブランド」として国内外で広く親しまれており、近年では、リニア中央新幹線の建設促進、中部横断自動車道等の整備促進など将来の発展に繋がるプロジェクトが、世界文化遺産富士山を抱える山梨で大きく動きだしています。

県章



- ①山梨のぶどう紫玉(しぎょく)
- ②山梨リニア実験線の新型車両 L0 (エルゼロ) 系
- ③山梨で生まれ育った浅間白桃
- ④ 国産ワインコンクール 2014 で金賞を受賞したワイン (県内ワイナリーで醸造された 12 種類)
- ⑤サクラと世界遺産・富士山



長野県知事メッセージ



長野県知事 阿部 守一

生物と文化を育む南アルプスの恵みを将来へ

南アルプスが昨年（平成26年）6月1日に国立公園として指定50周年を迎え、ここに記念誌が発刊されますことに心からお祝いを申し上げます。

昭和39年に指定された南アルプス国立公園は、3,000 m級の高峰を十座以上有する、日本を代表する山岳公園として知られ、その峰々は南北約50km、東西約15kmに亘り、伊那谷からはその全貌を山脈として遠望することができます。

氷河時代の遺存種である県鳥ライチョウの生息地の南限となっているほか、サンプリンドウ等の固有の高山植物や希少な動物が生息する等、多様な生態系が南アルプスの魅力を更に高め、多くの登山者がその頂を目指しています。

中央・糸魚川-静岡の二大構造線に影響を受けた南アルプスの特異な地形・地質は地質遺産として日本ジオパークに登録されるとともに、ユネスコからは生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目指すユネスコエコパークとして昨年6月に登録され、国際的にも高く評価されているところです。

また、雄大な山容は、古くから山岳信仰の対象としてあがめられ、麓の集落では、選択無形民俗文化財指定の大鹿歌舞伎や国重要無形文化財指定の霜月祭等の伝統的な文化行事が数百年以上も昔から受け継がれてきました。

長野県は、こうした南アルプスの豊かな自然環境の保全と利活用を進めるため、県の総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン」の主要施策に、“世界水準の山岳高原観光地づくり”を掲げ重点的に取り組んでおります。

具体的には、信州の山を安全に楽しんでいただくための条例の制定や登山の難易度の目安となる山のグレーディング、長野県山岳環境連絡会を通じた山域デザインの設定等により活用を進めます。また、ライチョウ等の希少な野生動植物の保護対策やシカ等の野生鳥獣被害対策により環境保全を図る等、長野県の大きな強みである雄大な自然の恵みを享受できるよう取り組んでまいります。

長野県は昨年、県民共通の財産であり暮らしと文化の源泉でもある「山」に感謝し、守り育てながら活かしていこうと、7月第四日曜日を「信州 山の日」といたしました。山の恵みをはじめ長野県の豊かな自然に畏敬の念を抱きつつ、未来に継承する取組みを進めてまいりますので、関係各位の引き続きの御理解と御協力をお願いいたします。

長野県基礎データ

緯度	北緯：36度39分4.6秒
経度	東経：138度10分51.4秒
県面積	13,562平方km
南アルプス国立公園の面積	14,079ha
年間平均気温	11.9℃
年間降水量	932.7mm
年間日照時間	1,939.6時間
人口総数	2,105,187人（平成27年1月1日現在）
世帯数	812,366世帯（平成27年1月1日現在）

※緯度・経度は県庁所在地における数値

県の紹介

長野県は、3,000 m級の山々に囲まれ、広い県土の8割を占める森林が育む清らかな水や澄んだ空気、そして多様な気候が、豊かな自然や美しい景観を作り出しています。これら自然の恵みと、先人の営々とした努力によって築かれてきた全国トップレベルの健康長寿や、各地に受け継がれてきた伝統・文化といった優れた特徴を活かし、「世界水準の山岳高原観光地づくり」をはじめ、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」づくりを着実に進めています。

県章



①御嶽山 ②美ヶ原 ③霧ヶ峰 ④中央アルプス
⑤北アルプス

静岡県知事メッセージ



静岡県知事 川勝 平太

南アルプス国立公園が指定50周年を迎え、その節目の年にユネスコエコパークに登録されたことを、心からお慶び申し上げます。また、過去50年の歴史を振り返るとともに、南アルプスの将来について考えることを目的に開催した記念事業では、多くの皆様に御参加いただきました。関係の皆様への御協力に感謝申し上げます。

南アルプスは、3,000メートル級の高い山や深い谷が豊かな自然環境を育む生物多様性に富んだ地域であり、同時に、その山河と共に生きてきた人々の生活の場として、地域の歴史や文化が継承されてまいりました。このたびのユネスコエコパークの登録は、こうした南アルプスが有する豊かな自然や文化が、国際的に認められた証です。

静岡県は、日本の宝であり、国土のシンボルである世界文化遺産「富士山」、世界農業遺産の「茶草場農法」、世界ジオパーク候補の「伊豆半島」など、世界水準の「場の力」に恵まれた地域です。ユネスコエコパークの登録により、また一つ、新たな世界水準の「場の力」が加わることになりました。本県では、こうした「場の力」を活用し、魅力ある「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」に取り組んでいるところです。

近年の登山ブームにより南アルプスへの関心が高まっている中、リニア中央新幹線の建設工事が始まるなど、南アルプスを取り巻く社会環境は大きく変化しております。このたびの国立公園指定50周年とユネスコエコパークへの登録を契機として、南アルプスの貴重で魅力的な自然環境と文化を次世代にしっかりと引き継ぐとともに、それらと調和した地域の発展につながるよう、山梨県、長野県及び関係10市町村と共に、一体となって取り組んでまいります。今後とも、関係の皆様への御支援、御協力をお願い申し上げます。

静岡県基礎データ

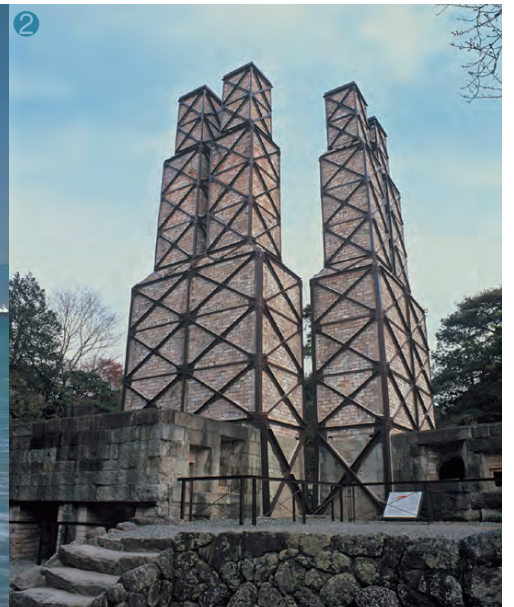
緯度	北緯：34度58分37秒
経度	東経：138度22分59秒
県面積	7,780.60平方km
南アルプス国立公園の面積	3,387ha
年間平均気温	16.5℃
年間降水量	2324.9mm
年間日照時間	2230.6時間
人口総数	3,694,105人（平成27年1月1日現在）
世帯数	1,434,915世帯（平成27年1月1日現在）

※緯度・経度は県庁所在地における数値

県の紹介

静岡県は日本のほぼ中央に位置し、南側は遠州灘、駿河湾、相模湾に沿った約500kmの海岸線を配し、北側は富士山や南アルプスといった3,000m級の山々が連なっています。このようなバラエティに富んだ静岡県の自然は、ユネスコエコパークに登録された「南アルプス」のほか、世界文化遺産の「富士山」、日本ジオパークの「伊豆半島」、世界農業遺産の「静岡の草茶場農法」など世界的な資産を有しています。

県章



- ①世界文化遺産「富士山」（写真提供：静岡県観光協会）
- ②富士山反射炉（写真提供：静岡県観光協会）
- ③世界農業遺産「静岡の草茶場農法」（写真提供：静岡県 広報課）
- ④日本ジオパーク「伊豆半島」（写真提供：静岡県観光協会）
- ⑤浜名湖（写真提供：静岡県観光協会）

葦崎市長メッセージ



葦崎市長 内藤 久夫

南アルプスが国立公園指定 50 周年を迎えられ、南アルプスを構成する 3 県 10 市町村の一員として感慨もひとしおであると同時に、これまでの半世紀にわたり、雄大な南アルプスの自然保護などに、多大なご尽力を賜りました関係者の皆様に、あらためまして感謝を申し上げる次第であります。

本市にとりましては、市制施行 60 周年の節目の年でもあり、南アルプスがユネスコエコパークに登録されたこととも相まって、二重、三重の喜びに満ち溢れた、記念すべき年となりました。

さて、南アルプス国立公園で、ユネスコエコパークの核心地域にあり、深田久弥氏の日本百名山にも名を連ねる「鳳凰（三）山」は、奈良法王が開山したという言い伝えや地蔵ヶ岳の山頂に屹立する奇岩（オベリスク）が、まるでお地蔵様が合掌しているかのように見えることから、子授け地蔵として崇拜されるなど、伝説や信仰の山として、古くから岳人に愛されてきた本市を代表する名峰であり、稜線からの富士山や白峰三山、甲斐駒ヶ岳などの眺望にも恵まれ、いまでも多くの登山客が山行を楽しんでいます。

また、南アルプス国立公園の前衛・ユネスコエコパークの緩衝地域にある「甘利山」は、約 15 万株ともいわれるレンゲツツジの群落が 6 月中・下旬に山頂一帯を真紅に染めるなど、本市の観光スポットとして、例年、多くのハイカーで賑わっています。

一方、昨今では、鹿による食害や外来植物の繁殖が、南アルプスの貴重な生態系に様々な影響を及ぼすなどの課題が山積しており、この国の宝ともいべき貴重な自然を未来に継承するための対策が急務となってきております。

南アルプス国立公園指定 50 周年を契機に、南アルプスが有する豊かな自然環境を構成市町村共有の財産として位置づけ、地域間交流の拡大と連携のもとに、生態系の保全と利活用の調和に努めながら、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりに向け、関係機関や地域住民の皆様とともに、全力で取り組んでまいります。

韭崎市基礎データ

緯度	北緯：35度 42分
経度	東経：138度 26分
市面積	147.73 平方 km
市域に係る南アルプス 国立公園の面積	578ha
年間平均気温	13.7℃ (平成 25 年)
年間降水量	955.5mm (平成 25 年)
年間日照時間	2,294.7 時間 (平成 25 年)
人口総数	30,465 人 (平成 26 年 6 月 30 日現在)
世帯数	12,390 世帯 (平成 26 年 6 月 30 日現在)

※緯度・経度は役場所在地における数値

市の紹介

韭崎市は、武田家ゆかりの史跡が市内のいたるところに点在する「甲斐武田家」のふるさとです。また、南アルプスをはじめ、八ヶ岳、茅ヶ岳、そして霊峰富士など日本の名峰が360°のパノラマに展開し、山紫水明の恵まれた自然環境を育むところです。「夢と感動のテーマシティにらさき」のスローガンのもと、官民一体となった「チームにらさき」で、活力と魅力あふれるまちづくりを進めています。

市章



①武田八幡宮 ②わに塚のサクラ ③新府桃源郷と南アルプス
④地藏ヶ岳 ⑤甘利山山頂

南アルプス市長メッセージ

南アルプス市長 中込 博文



南アルプス市は日本で第二の高峰である北岳など 3,000 m級の山々を有し、南アルプス国立公園の玄関口として国内外から多くの登山者をお迎えしています。登山の拠点となる広河原や各山小屋では、登山者への情報提供や安全対策を行い、自然に負荷を与えない登山利用を心がけてもらうように努めています。

山梨県開催事業では、「受け継ぎ歩む南アルプス」をテーマに、10月に2日間南アルプス市内でイベントが開催され、記念の年を祝いました。南アルプス国立公園のシンボルマークの表彰式、日本を代表する山岳ガイドによるトークイベント、芦安中学校の生徒による未来への提言、広河原自然観察会やシカ肉試食会などのイベントが開催され、多くの方にご参加いただき、国立公園の魅力を発信することができました。

また、6月には山梨県、長野県、静岡県 の 10 市町村で連携し取り組んできた、南アルプスのユネスコエコパークへの登録が決定いたしました。南アルプスには貴重な動植物が生息し日本を代表する自然環境が残されており、多くの登山者に愛されると共に、そのふもとに暮らす人々は山から湧き出る清らかな水やおいしい果物など自然の恵みを受けながら、南アルプスと共に共生してまいりました。この地に暮らす人々が育んできた南アルプスの自然環境は古くから多くの人々を魅了し、我が国だけでなく世界に誇れる宝であります。私たちはこの宝物であるすばらしい自然環境を後世に引き継いでいかなければなりません。これからも国立公園を核とした南アルプスの自然環境の持続的な保全を行い、持続可能な利活用を図りながら、ユネスコエコパークとして魅力的な地域をつくりあげていきたいと考えています。

本事業の開催にあたり、多くの方々にご支援、ご協力をいただき、盛大に開催できましたことを心より感謝申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

南アルプス市基礎データ

緯度	北緯：35度36分
経度	東経：138度28分
市面積	264.06平方km
市域に係る南アルプス国立公園の面積	10,754ha
年間平均気温	13.7℃
年間降水量	955.5mm
年間日照時間	2,294.7時間
人口総数	72,950人（平成26年6月30日現在）
世帯数	26,615世帯（平成26年6月30日現在）

※緯度・経度は役場所在地における数値

市の紹介

南アルプス市は、富士山に次いで2番目に高い北岳（標高3,193m）に代表される南アルプス山脈の麓に広がる人口7万余りのまちです。桃、すもも、サクランボ、ぶどうなどの果樹園や田や野菜畑が広がる典型的な田園都市です。人と自然の響き合う新「文化」都市南アルプス市です。

市章



① 文化的な田園風景棚田

② 桃畑と白根三山

③ 南アルプスの主峰 北岳

④ 空撮全市

北杜市長メッセージ



北杜市長 白倉 政司

平成26年6月1日に南アルプス国立公園が指定から50周年を迎えたことは、10構成市町村として大きな喜びであり、心からお祝い申し上げます。

北杜市は、日本百名山の甲斐駒ヶ岳をはじめとする山々、名水百選に選定された「尾白川」、東日本一の落差「精進ヶ滝」、樹齢2000年の日本三大桜「神代桜」など豊かな自然、伝統的な「虎頭の舞」など様々な文化があふれるまちです。風化した花崗岩の砂の中に岩塔が点在する独特な風景をもつ日向山や白砂を敷き詰めたような美しさを誇る甲斐駒ヶ岳の山頂には、毎年多くの登山客が訪れています。

本市は、南アルプス国立公園指定50周年をお祝いするため、南アルプスの山並みと豊かな自然環境の象徴である緑・空・水をイメージしたモニュメントを「道の駅はくしゅう」に設置し、市民の皆様と喜びをともにいたしました。

また、甲斐駒ヶ岳などの花崗岩質の山々から流れ出る清涼な水は、日本一のミネラルウォーターの生産地とともに「武川米」をはじめとする安全で安心な農畜産物を生み出していることから、一人でも多くの方に北杜市の食を届けるべく、平成26年11月に「安全・安心 日本の台所」宣言を行いました。

一方、平成26年6月には南アルプスがユネスコエコパークに登録されました。本市では、南アルプス国立公園の雄大な山岳景観、かけがえのない自然環境、貴重な動植物を守り、受け継ぐため、「北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会」を立ち上げました。保全活動や住民への意識啓発等を行い、世界に誇れる貴重な資源を再発見・再認識し、これらを活かした交流促進やブランド化を図り、地域の活性化を行ってまいります。そのため、魅力ある故郷を創出する「北杜市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を活用し、10年、50年、100年と未来へ繋げるべくまい進してまいります。

終わりに、南アルプス国立公園指定50周年を迎え、これまでご尽力いただきました大勢の皆様方に衷心より敬意を表し、メッセージとさせていただきます。

北杜市基礎データ

緯度	北緯：35度46分
経度	東経：138度51分
市面積	602.89平方km
市域に係る南アルプス国立公園の面積	4,221ha
年間平均気温	11.6℃
年間降水量	1,009.5mm
年間日照時間	2,436時間
人口総数	48,428人 (平成27年3月現在)
世帯数	20,865世帯 (平成27年3月現在)

※緯度・経度は役場所在地における数値

市の紹介

北杜市は、山梨県北西部に位置し、南アルプス・ハケ岳・茅ヶ岳など日本を代表する山岳景観に囲まれ、日照時間、国蝶オオムラサキの生息数、ミネラルウォーターの生産量がいずれも日本一など豊かな自然環境に恵まれた地域です。また、「金田一春彦記念図書館」や「平山郁夫シルクロード美術館」など、多くの文化芸術施設があります。さらに、北杜サイト太陽光発電所や村山六ヶ村堰水力発電所など、自然の恵みを活かしながら、環境にやさしいまちづくりを進めており、「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」を目指しています。

市章



- ① 南アルプスを源流とする尾白川の神蛇滝
- ② 日照時間日本一のひまわり畑
- ③ 平山郁夫シルクロード美術館
- ④ 実相寺の桜と甲斐駒
- ⑤ 太陽光発電実証研究パネル



早川町長メッセージ

早川町長 辻 一幸



南アルプス国立公園が、ここに指定 50 周年を迎えました。関係町として、また南アルプス国立公園を有する町として感慨一入のものを覚えると同時に喜びに堪えません。

昭和 39 年、国立公園として指定された時の思いが昨日のこのように蘇ってきました。雄大な南アルプスが、価値ある国立公園として国からお墨付きをいただいたこと、地元としたら誇りであるし、このことで地域の発展と活性化を目指すことも可能であるという期待にも胸躍らせました。以来、私たちの町早川町は、南アルプス国立公園の町として、今日までの歩みを続けてきたと言っても過言ではありません。

早川町は、南アルプス圏域、静岡、長野、山梨三県 10 市町村の一員で、静岡県との県境にあり静岡市の上流域と隣接して、町の母なる川、早川の上流域には、南アルプスの主峰で 3,193 m の我が国第二の北岳、3,190 m の我が国第三位の間ノ岳に至る位置にあり、南下して農鳥岳 (3,026 m)、黒河内岳 (2,717 m) まだが国立公園に指定されています。370 平方 km の町面積は 96% が森林で全域が急峻なこの南アルプスの地形の中に存在しています。

早川町は、今日まで「自然 (かみ) の恵み人のふれあい南アルプス邑 (むら) 早川町」という目標を掲げて町づくりを進めてきています。正に、この南アルプスの自然の中で人々の暮らしや文化を築いてきています。

時あたかも、26 年 6 月にユネスコにおいて南アルプスがユネスコエコパークに認定を受けました。世界的な評価をいただけたものと二重の喜びをかみしめているところです。この評価と認定も国立公園として 50 年前に指定を受けた時からの延長上であると確信いたします。そこに暮らす人々が、この南アルプスとの共存の中で今日があること、またこれからもこのことを深く認識してこの南アルプスの中で力強く生きていくところに地域の明日が開けていくと信じます。次なる 100 周年に向かって、国立公園とユネスコエコパークにさらに世界自然遺産の認定に向かって前進することを誓いたいと思います。

早川町基礎データ

緯度	北緯：35度24分
経度	東経：138度21分
町面積	369.86平方km
町域に係る南アルプス国立公園の面積	2,732ha
年間平均気温	15.3℃
年間降水量	2,205.5mm
年間日照時間	1,895.4時間
人口総数	1,142人（平成27年3月1日現在）
世帯数	645世帯（平成27年3月1日現在）

※緯度・経度は役場所在地における数値

町の紹介

山梨県の南西部に位置する早川町は、南アルプス白根山系と甲斐巨摩山系に囲まれ、中央を日本列島を分断するといわれる糸魚川・静岡構造線（フォッサマグナ）が貫いています。急峻な地形は複雑な渓谷美を造り、厳しい自然環境は豊かな人情と独特の山村文化を育んできました。また、豊富な温泉資源にも恵まれ、早川町を訪れる人々に憩いと安らぎを与えてくれます。

町章



- ①七面山羽衣の滝
- ②西山温泉
- ③早川渓谷
- ④白鳳渓谷
- ⑤山菜まつり



飯田市長メッセージ

飯田市長 牧野 光朗



南アルプス国立公園が指定 50 周年を迎えたことに、本市としても大きな喜びを感じております。また、この節目の年に南アルプス地域がユネスコエコパークへと登録されたことも大変意義深いものと思います。

旧木沢小学校に保管されている過去の資料には、南アルプス国立公園発足以前の新聞があり、国立公園指定を目指す静岡、山梨、長野 3 県合同の取り組みが既に始まっていたことが書かれています。現在の世界自然遺産やユネスコエコパークを目指した活動と似ていると感じますが、南アルプス国立公園が 50 年もの長い期間、素晴らしい自然を今に引き継いで来られたのも、地域住民の皆様方や南アルプスを愛する方々の継続した取り組みがあったからこそと感じております。

国や県においては山の日 の 制定により魅力ある山岳観光地づくりが進められており、南アルプスについては平成 19 年 2 月より国立公園に関係する 10 市町村により協議会を設け、世界自然遺産登録へ向けた南アルプスの価値や魅力を発信してきました。現在、その活動はユネスコエコパークやジオパークという新たな取り組みにも広がりを見せています。

一方で、南アルプスを取り巻く環境は、ニホンジカの増殖による食害被害、登山者の増加による山の環境問題や遭難など、過去にはなかった課題も出てきております。これらの課題は 1 自治体では対応が困難なものであり、地域の連携が重要となります。

この素晴らしい南アルプスを次世代へと引き継げるよう、これからも、国や県、関係市町村との連携を深めながら、この豊かな自然と地域をどう保全し、どう活かしていくのか、関係団体、地域住民の皆様方とともに取り組んでまいりたいと考えております。

飯田市基礎データ

緯度	北緯：35度30分53秒
経度	東経：137度49分19秒
市面積	658.73平方km (平成25年10月1日現在)
市域に係る南アルプス国立公園の面積	3,373ha
年間平均気温	13.1℃
年間降水量	1,409.5mm
年間日照時間	2,240.9時間
人口総数	105,003人 (平成26年6月30日現在)
世帯数	39,347世帯 (平成26年6月30日現在)

※緯度・経度は役場所在地における数値

市の紹介

飯田市は、3,000メートル級の山岳地帯から人でにぎわう市街地まで、四季の変化に富む豊かな自然と優れた景観に恵まれ、街の暮らし、里の暮らし、山の暮らしといった多様なライフスタイルを表現できるまちです。

長い歴史と伝統文化に育まれた人情味あふれるまちで、地域の資源を活かした体験教育旅行やグリーンツーリズム・エコツーリズムなど学習の場としても利用されています。

市章



- ①重要無形民俗文化財「遠山の霜月祭」湯切り
- ②体験教育旅行で田植え 日本のお米百選「よこね田んぼ」
- ③日本で最大の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」
- ④南アルプスと飯田市街地
- ⑤中学生が守り育ててきた大火復興のシンボル「りんご並木」

伊那市長メッセージ

伊那市長 白鳥 孝



南アルプスが国立公園に指定されて半世紀、環境省をはじめ山梨、長野、静岡の3県10市町村の関係者の連携により、ここに50年の節目を迎えることができました。昨年5月24日（土）に伊那市で開催された記念式典では、関係する多くの皆様方にご支援、ご協力をいただき、盛大に開催できましたことに心より感謝申し上げます。

これから先の南アルプスの50年、100年を想うとき、私たちは、祖先から受け継いだ南アルプスの自然を損なうことなく、次の世代へと引き継いでいくために、しっかりした取り組みを進めなければならない思いを新たにしているところです。

今の時代は、地球環境や生活環境の変化のなかで、山岳地域における自然保護のあり方、かかわり方を見直しながら、環境の変化に柔軟に対応していかなければなりません。

伊那市では関係機関と連携して高山帯での防鹿柵の設置、登山者へのマナー&クリーンアップキャンペーン、外来植物の除去など地道な環境保護活動をおこなってきました。なかでもニホンジカの食害等による高山植物絶滅の危機、外来植物の範囲拡大、トイレ問題など、南アルプスには様々な課題が山積しており、課題解決のために国や県、10市町村、住民が一体となって考え、協力して解決していかなければなりません。

また、南アルプスは国立公園のみならず、ジオパーク、ユネスコエコパークとして世界に発信できる大きな財産です。持続可能な利活用を進め、地域すべての人が自慢でき、世界から多くの人々が訪れる美しく魅力ある地域をつくりあげていきたいと考えています。そして、国立公園指定50周年の記念すべき年にユネスコエコパークに登録されたことは、次の50年に向けてのうれしいスタートの年となりました。これからも南アルプスの自然を守るため、みんなでしっかり取り組んでいきましょう。

伊那市基礎データ

緯度	北緯：35度49分
経度	東経：138度57分
市面積	667.81平方km
市域に係る南アルプス 国立公園の面積	7,0191ha
年間平均気温	12.3℃
年間降水量	1383.0mm
年間日照時間	2,273.5時間
人口総数	69,739人（平成27年3月1日現在）
世帯数	26,880世帯（平成27年3月1日現在）

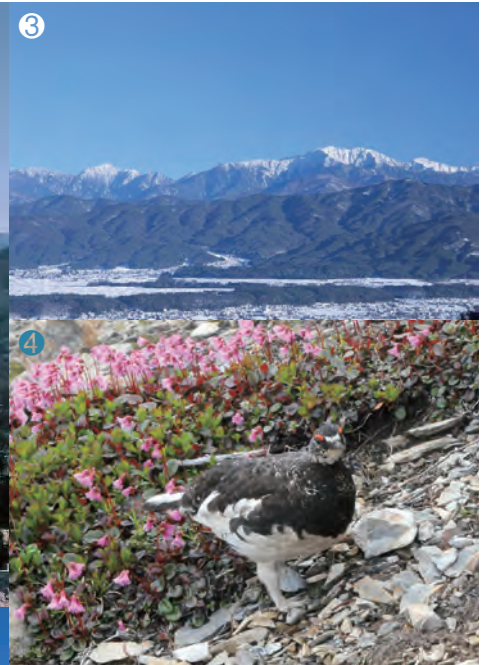
※緯度・経度は役場所在地における数値

市の紹介

伊那市は、長野県の南部に位置し、東に南アルプス、西に中央アルプスという3,000m級の2つのアルプスを有しており、2つのアルプスに抱かれた中央部には、扇状地や河岸段丘が形成され、広大なパノラマが展開しています。気候は内陸的で、年間の日照時間も長く、冷涼で住みよい環境にあり、産業がバランスよく発展しています。

また、「天下第一の桜」と称される高遠城址公園の桜や仙丈ヶ岳を中心とする南アルプス国立公園には毎年多くの観光客が訪れています。

市章



- ①高遠城址公園と南アルプス
- ②仙丈ヶ岳
- ③南アルプス遠景
- ④ライチョウ
- ⑤シナノコザクラ

富士見町長メッセージ

富士見町長 小林 一彦



2014年に南アルプス国立公園指定50周年記念を迎え、各地でお祝いの行事が盛大に開催され、更にその記念の年に南アルプス山系及び周辺地域がユネスコエコパークに認定されたことは大変喜ばしいことと思います。また、長野県伊那市では日本ジオパーク大会も盛大に行われ、南アルプスの自然遺産としての価値がより周知されたことも大変意義深いと思います。

南アルプスユネスコエコパークの北端に位置する富士見町の山岳及び里山では、昨年、長野県の植樹祭が開催され、森林地帯の保護育成事業が強化されました。植物では、絶滅危惧種に指定された華麗な「カマナシホテイアツモウソウ」を再生するための自生地保護や無菌培養による育苗事業により、再生が成功しつつあります。また、2万年前に形成された日本の高層湿原の南限に位置する入笠湿原については、これまでボランティアや企業の環境活動によりしっかり保全することにより、100万本の「ニホンスズラン」の群生地が維持されています。

南アルプスジオパークは、地球古生代からの地殻変動により海底がせり上がり形成された山岳が特徴的であり、町内の入笠山の頂上付近にも海底の堆積物の岩々が多数存在し、地球古来の大きな変動の歴史が随所に目に触れられ感動を与えてくれます。

富士見町としては、ユネスコエコパーク・ジオパーク両面で素晴らしい自然を未来に繋げようと環境保護活動を進めてきました。今後とも関係市町村として、南アルプス国立公園が一層輝く存在になることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

富士見町基礎データ

緯度	北緯：35度 54分
経度	東経：138度 14分
市面積	144.37 平方 km
南アルプス国立公園に属する面積	35ha
年間平均気温	9.5℃
年間降水量	1,115.0mm
年間日照時間	2,366.4 時間
人口総数	14,914 人 (平成 26 年 6 月 30 日現在)
世帯数	5,667 世帯 (平成 26 年 6 月 30 日現在)

※緯度・経度は役場所在地における数値

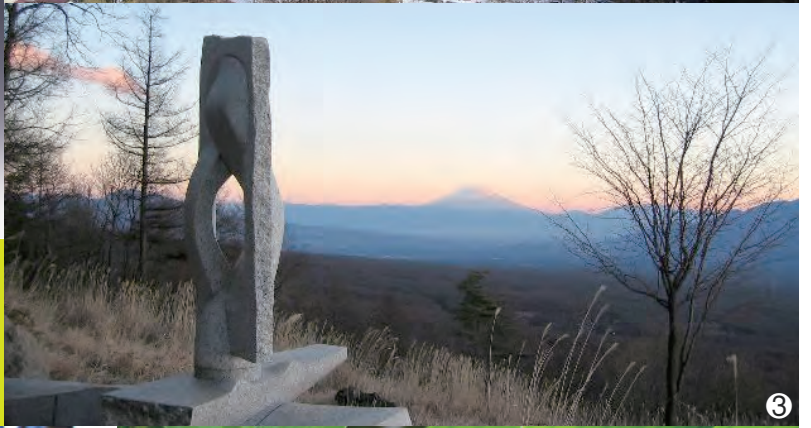
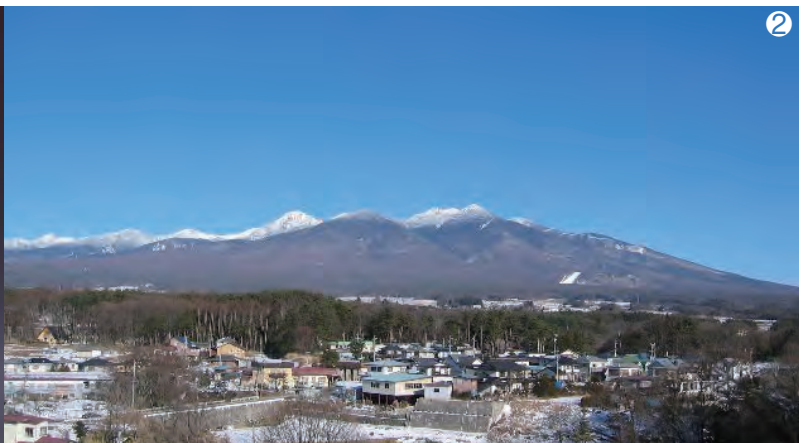
町の紹介

富士見町は、富士山、八ヶ岳、入笠山、甲斐駒ヶ岳などの雄大な山々が望める、標高約 1,000m の高原の町です。南アルプス山系の入笠山には、花の宝庫と言われる入笠湿原では 100 万本のニホンズランの群生や、絶滅危惧種に指定された幻の花、釜無ホテイアツモリソウなどを見ることができます。

町章



①文化・井戸尻遺跡の縄文土器（水煙渦巻紋深鉢）
 ②八ヶ岳南麓に広がる家並み
 ③創造の森から見た富士山
 ④カマナシホテイアツモリソウ
 ⑤ニホンズラン



大鹿村長メッセージ

大鹿村長 柳島 貞康



南アルプスは、平成26年6月1日に国立公園指定50周年を迎えることとなりました。これまでに、国立公園指定や管理に多大なご尽力を賜りました関係者に心より深く感謝申し上げます。また平成26年6月12日に、南アルプスがユネスコエコパーク登録となり、世界的にも南アルプスが認められる記念すべき年となり大変光栄に思います。

大鹿村としましても、南アルプスユネスコエコパーク登録を受け、南アルプスの自然の素晴らしさ、そこから私たちが頂いている恩恵、そして今まで気付いていなかった魅力の再発見等、ここに住んでいるという誇りのようなものを今まで以上に強く感じています。

さて、大鹿村は平成17年10月から「日本で最も美しい村連合」に加盟し、失ったら二度と取り戻せない日本の農山村風景や環境・文化を守る活動をしています。南アルプスユネスコエコパークは、自然や文化を大切に守りながら、その恵みを地域社会の発展に活用していく取り組みです。大鹿村として「日本で最も美しい村連合」の活動と類似しているところがあるため、今あるものを活かしながら、地域間交流の拡大、自然の恩恵を活かし、更にジオパークという新たな取り組みと合わせて、魅力ある地域づくりを目指していきます。

今、南アルプスの登山者は増加傾向にあるため、自然環境問題や安全な登山について、関係市町村と連携し、世界に誇れる南アルプスとなるように取り組みます。併せて、村内全域の保全と地域振興のための活用について、地域住民や関係団体の皆様の協力を得ながら深く研究を進めて取り組みたいと考えます。

大鹿村基礎データ

緯度	北緯：35度34分
経度	東経：138度02分
村面積	248.35平方km
村域に係る南アルプス国立公園の面積	3,652ha
年間平均気温	—
年間降水量	1,479.5mm
年間日照時間	—
人口総数	1,111人（平成26年6月30日現在）
世帯数	519世帯（平成26年6月30日現在）

※緯度・経度は役場所在地における数値

村の紹介

大鹿村は、古くは南北朝の時代後醍醐天皇の第8皇子宗良親王が30余年この地を南朝の拠点としてお暮らしになりました。明治22年（1889年）大原・鹿塩の2か村が合併し大鹿村となりました。本村は、長野県下伊那郡の北東部に位置し、静岡県と長野県の7市町村に囲まれた村です。東には南アルプス3,000メートル級の山々がそびえ立ち、西は伊那山脈に隔てられた農耕地の少ない典型的な山村です。赤石岳に源を発する小渋川はこの山ひだを縫って西北に流れ、中川村で天竜川に合流しています。本村の中央部を中央構造線が南北に縦断していることで、地質学的にも知られています。また、山野の植物資源も日本の宝庫といわれるほど豊富です。

村章



- ①ヒマラヤの青いケシ
- ②国選択無形民俗文化財「大鹿歌舞伎」
- ③桜の名所「大西公園」
- ④春の南アルプス
- ⑤大西公園から見る南アルプスの眺望



静岡市長メッセージ

静岡市長 田辺 信宏



平成 26 年 6 月、南アルプス国立公園が国立公園指定 50 周年を迎えました。

そして同月、時を同じくして南アルプスがユネスコエコパークにも登録されました。

この記念すべき年を迎えることができましたのは、皆様方の南アルプス国立公園の保全と発展のための並々ならぬご尽力の賜物と、深く感謝いたします。

南アルプスは、これまであまり多くの人に入られることなく、すばらしい自然環境が守られてきました。そして、その自然や生きものが与えてくれる多くの恵みによって、私たちは豊かで健康な生活を送ってまいりました。

この世界に誇れる大自然を残す取組が 50 年の節目を迎え、世界にもその価値が認められたことを、非常に喜ばしく思います。そして、この南アルプスがこれからもずっと将来に渡り守られ、愛される存在となるよう、これまで以上に邁進しなければ、と改めて身の引き締まる思いです。

今、ライチョウや高山植物など、南アルプスの貴重な動植物は、気候変動や、生態系の均衡が崩れてしまったことなどにより危機に瀕しています。「手付かずの自然」は、もはや人の手で適切に、積極的に保全しなければ守ることができなくなってしまうています。

このような中、本市では、対策が急務である高山植物保護活動などを展開することと並行して、南アルプスを愛し、守っていきたいと想う、次の担い手の育成に力をいれていく所存です。

「大切なものを守ろう」という想いは、守ろうとするものの価値・魅力を知り、それを敬うことから始まると考えます。

そのために、皆様方と連携して、南アルプスの恵みを守り活用している地域の暮らしの魅力を発信するとともに、自然と触れ合う魅力的な教育活動を展開するなど、交流人口の拡大を推進してまいります。

子どもたちをはじめとした多くの方々に「南アルプスを大切に想う心」が育まれるよう、より一層の取組を推進する決意です。

静岡市基礎データ

緯度 北緯：34度58分
 経度 東経：138度23分
 市面積 1,388.78平方km
 市域に係る南アルプス国立公園の面積 3,381ha
 年間平均気温 17.2℃
 年間降水量 1,822.0mm
 年間日照時間 2,297.6時間
 人口総数 707,183人（平成26年6月30日現在）
 世帯数 290,289世帯（平成26年6月30日現在）

※緯度・経度は役場所在地における数値

市の紹介

静岡市は、政令指定都市として、また、静岡県の県都として政治・経済・文化などの様々な中枢機能が集積する都市であるとともに、北には3,000m級の高峰が連なる南アルプスを仰ぎ、南には資源豊富な駿河湾にいだかれた三保半島や天然の良港である清水港を擁し、美しく広大な市域を持つ都市です。

市章



- ① 11月開催の大道芸ワールドカップ in 静岡
- ② 世界文化遺産「富士山」構成資産 三保松原
- ③ 赤石岳
- ④ 4月開催の静岡まつり
- ⑤ 上空から望む静岡平野と富士山



川根本町長メッセージ



川根本町長 鈴木 敏夫

南アルプスの国立公園指定 50 周年にあたり、心からお祝い申し上げます。

昭和 39 年 6 月 1 日の国立公園指定から長きにわたり、南アルプスの環境保全や啓蒙普及活動など、様々な分野でご尽力されてきた文部科学省、環境省、林野庁、静岡県などの関係行政機関の皆様へ深く感謝すると共に、ユネスコエコパーク登録に向けて手を携え努力を重ねてきた 3 県 9 市町村の皆様へ改めて敬意を表します。

南アルプスは、皆様ご承知の通り、3,000m 級の山々が 13 座連なるわが国を代表する山岳地帯です。活発な地殻活動によって形成された豊かな森林や、多種多様な動植物たちが生息する、まさに「生命の宝庫」ともいえる地域です。そして私たちは、その奥深く厳しい自然と向き合う中で、育まれてきた生活様式や伝統文化を今に伝え、大切に守っています。

平成 26 年 6 月には、南アルプス 50 周年と時を同じくしてユネスコエコパーク登録が決定し、大きな勇気と誇りを与えてくれました。

私たちは、この登録を契機として、自然資源を生かしたエコツーリズムの充実や、環境教育の一層の推進、環境に配慮した農業の振興など、世界に誇れるオンリーワンの地域づくりを目指していかなければなりません。

指定から 50 周年を迎えた南アルプスが、さらにこの先の 50 年に向けて大きく飛躍を遂げていくため、私たち一人一人に何ができるのか、何をすべきなのかを常に考え続けていく必要があると考えます。それこそが、南アルプスの恩恵を受ける私たちの責務なのです。

結びに、南アルプス関係諸団体の皆様のみますますのご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

川根本町基礎データ

緯度 北緯：35度 03分
 経度 東経：138度 05分
 町面積 496.72平方 km
 南アルプス町国立公園の面積 5ha
 年間平均気温 14.1℃
 年間降水量 2,641.0mm
 年間日照時間 1,945.6時間
 人口総数 7,777人 (平成26年6月30日現在)
 世帯数 2,973世帯 (平成26年6月30日現在)

※緯度・経度は役場所在地における数値

町の紹介

川根本町は、静岡県の中東部を流れる大井川中流域、南アルプス国立公園の最南端に位置し、町の北部には光岳など2,000～2,600m級の山々が連なっています。町域の90%以上が山林ですが、大井川に沿った山間斜面を利用した茶の栽培が盛んで、良質な川根茶の産地として知られるとともに、四季折々に変化する山々や温泉などを目当てに年間およそ45万人の観光客が訪れます。なお、光岳の南西側は本州唯一の原生自然環境保全地域に指定されています。

町章



- ①大井川鐵道のSL
- ②お茶摘みの様子
- ③徳山の浅間神社盆踊り「鹿ん舞」
- ④光岳山頂付近にある光岩
- ⑤寸又峡の夢の吊橋



関東地方環境事務所長メッセージ



関東地方環境事務所長 上杉 哲郎

南アルプス国立公園は、昭和 39 年 6 月 1 日に指定され、平成 26 年 6 月に 50 周年を迎えました。本国立公園は長野県、山梨県、静岡県の 3 県にまたがり、東西約 15km、南北約 50km に及びます。日本第二位の高峰・北岳、第三位として北アルプスの奥穂高岳に並ぶ間ノ岳をはじめ、3,000m 級の高峰十座以上を有する、日本で有数の山岳公園です。誇り高くそびえる嶺々から湧き出る水が清流となって谷間を走り、貴重な高山植物が咲き誇る中、豊かで多様性に富んだ生態系を形づくっており、その素晴らしさは全国の人々を惹き付けてやみません。指定以来 50 年、南アルプスの雄大な自然を守るために、並々ならぬご尽力を頂いてきた地元自治体・関係機関をはじめ、関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。

近年の動きとして、南アルプス（中央構造線エリア）の特異な地形・地質が高く評価され日本ジオパークに認定されたほか、平成 26 年 6 月には関係自治体の多大なご尽力によって、南アルプスがユネスコエコパークとして登録されました。南アルプスの優れた自然環境を活かしながら、人と自然が共生する地域づくりを通じて、南アルプスの魅力がますます向上することを期待しております。

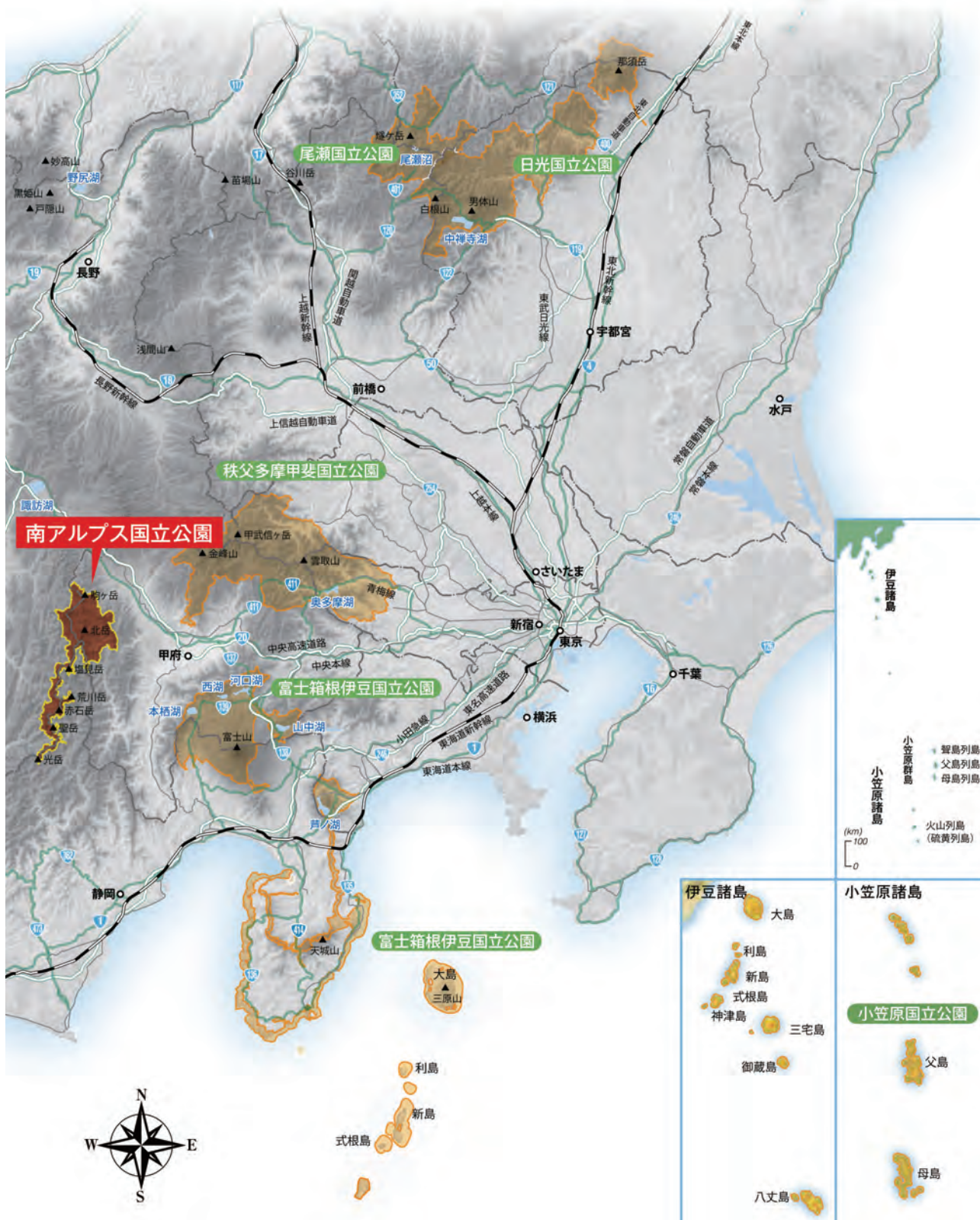
一方で、南アルプスでは、近年ニホンジカが高山帯にまで出没し、高山植物への食害が深刻化しています。このため、環境省を含めさまざまな機関が連携して防鹿柵の設置や山麓での捕獲等を実施しています。また、本公園の主役である登山利用者に自然の保護を図りながら快適で適正な利用環境を提供するため、環境省では利用拠点である北沢峠において休憩所を新たに整備していますが、今後とも関係機関と連携して情報提供の体制をつくっていくことが重要です。

今般、国立公園指定 50 周年を一つの契機として、南アルプスに関係する多くの方々による連携協力の体制がより一層発展強化されることを確信しつつ、この美しい南アルプスを後世に伝えるため、今後とも南アルプスの保護と適正な利用の推進にむけて取り組んでいきます。

National Parks of Kanto Area

関東地区の国立公園

関東地方環境事務所の管内には、南アルプス国立公園を含め多様性豊かな6つの国立公園があり、保護管理、自然とのふれあいや自然再生等を推進しています。



南アルプス国立公園指定 50 周年ロゴマーク作成者



伊那市創造館長 捧 剛太

南アルプス国立公園指 マークの製作

手元に残る初期のデータを見ると、2013年06月に最初の案を製作していました。実際の50周年記念日のちょうど1年前ということになります。

発端は、伊那市長谷の当時の関係者に依頼されて作ったもの。南アルプス国立公園指定 50 周年を地元で祝うために、名刺に貼るシールのデザインを、という要望でした。伊那市の中でも南アルプスに臨む地域の職員のための、ちょっとしたアイテムとして。

リクエストは仙丈ヶ岳のイラストと「南アルプス国立公園指定 50 周年」・「2014.06.01」の文字を入れることでした。仙丈ヶ岳のシルエットは伊那市西箕輪辺りから見える稜線をトレースして加工し、「50th anniversary」の「0」は、仙丈ヶ岳にかかる満月をイメージしました。

当初より 63 × 44(mm) の基本デザインと名刺に貼る 14 × 10 の小さなシールを 2 種類用意して、これは単純に基本のものを縮小するだけでは名刺に貼った際に文字やグラフィック要素が細くなりすぎて見えなくなることを防ぐためでした。また当初より、フルカラー版・2 色印刷版・ネガ版・ポジ版と用意して、さまざまな要求に耐えられるようにしておきました。

その後、英語版・伊那市ロゴを抜いた南アルプス全域バージョン、更に岳バッジデザインのリクエストが届き、ありがたいことに南ア国立公園 50 周年記念事業全体のロゴマークとして使っていただきました。ここに至って本当は「2014.06.01」という日付を「since 1964.06.01」にこっそり変えてしまおうか、とも思いましたが…。そうしておけば 50 周年を過ぎても使えたのですが、まあそれは言わないことにしておきます。

50 周年ロゴ製作中



いちばん楽しかったのは「南アルプスまるごと体験スタンプラリー」用に、ロゴを改造して白黒2色のスタンプをデザインしたことです。スタンプカードを入手して、よし6つ集めるぞ！と勇んだものですがなかなかハードルが高く仙丈小屋の1個のまま期限が来てしまいました。

広い南アルプス地域のあちこちで、このロゴマークを使い統一したイメージで50周年 year を過ごすことが出来たのは、わたしにとってはとても楽しく、また南アルプスにとって意義深いことであったと考えております。



スタンプラリー用ロゴ

50周年ロゴ

基本型 A (日本語)



B (日本語)



基本型 A (英語)



B (英語)



横長 A (日本語)



横長 B (日本語)



50周年ロゴ使用例

▼記念式典レセプション



▼子ども未来フォーラム



▼パネル



▼会場案内看板



自然公園指導員

南アルプス芦安山岳館長 塩沢 久仙



南アルプスが与えてくれる

今から遠く100万年も前、日本列島の中心部が隆起し始め南アルプスが誕生したといわれています。以来南アルプスは、今日まで、時間の経過と様々な厳しい気象現象に翻弄されながらも標高が3,000mを超える大きな山容が造られ、その中には見事な森林広がり、動物たちが遊び、可憐で美しい花々が咲き誇る豊かで多様性に富んだ生態系が形作られていて学術的にも貴重な地域です。

山々が与えてくれる、水、食料、燃料等によって私たち人間の生活が支えられ、そこに山岳信仰が生まれ、また、自然が織りなす様々な景観や仕草は私たちの豊かな精神活動のステージを提供して山と人とが織りなす山岳文化が生まれました。

このような山々と人との係わりを考えると、私たちは自然とどんなスタンスで対峙しなければならないのでしょうか。その答えの一つが自然公園法、種の保存法、森林法等の法律と各自自治体の自然保護関連の各種条例と私たちの山岳文化振興の活動でしょう。

さらに、50年前、全国で23番目に、南アルプスが国立公園に指定され、その一帯が自然公園法で貴重な自然が守られ理想的な適正利用を目指すと同時に昨年登録されたユネスコエコパークの理念の基づき、私たちの生活を自然と共生したライフスタイルに作り上げてゆくことが、この素晴らしい南アルプスの自然を傷つけることなく未来に引き継いでゆくことができるでしょう。

塩沢 久仙（しおざわ ひさのり）1942（昭和17）年南アルプス市生まれ、若い頃より登山に親しみ、昭和40年より夜叉神峠小屋、昭和60年からは広河原山荘の管理人となる。山小屋管理の傍らで、南アルプスの高山植物調査、環境問題や山岳文化の推進に取り組み、現在は南アルプス芦安山岳館館長として活動を展開している。環境省自然公園指導員、希少野生動物保存推進員、日本高山植物保護協会理事、NPO法人芦安ファンクラブ理事、南アルプス世界遺産推進協議会学術委員。

南アルプス国立公園関係功労者特別表彰 受賞者

静岡大学大学院理学研究科・特任教授 増澤 武弘



南アルプス国立公園50周年を迎え

南アルプスの特徴の一つとして、その山塊の大きさと広大な森林植生が挙げられます。そのために、開発が進むことなく、天然林に近い森林が大きな面積にわたって残存してきました。もう一つの特徴として、山岳地域としては日本列島の南部にあたるため、冷暖帯から寒帯までの幅広い気候帯を持つとともに、植物の分布においては、南限となるものが多く、動物においてもライチョウなどの南限にあたります。

南部の光岳南西面には、自然環境保全法に基づく大井川源流部原生自然環境保全地域があり、極めて自然度の高い部分が含まれています。この地域は、国立公園の法律などにより、長期間の保護が約束されています。また、南北に長い稜線付近には、多様な高山植物群落が発達し、それらの群落には、多くの固有種、周北極要素の種、大陸要素の種が含まれています。この部分は特別保護地域に指定されていて厳重に保護されています。

このように南アルプス国立公園には、太平洋側の温暖多雨の気候条件と深い峡谷が作り出す地形によって、多様な植生が発達しています。これらの理由から、2014年にはユネスコエコパークにも認定されました。しかし、保護しなければならない地域があまりにも広大であるために、地域の住民の皆さんや、登山者の皆さんの恒常的な援助が必要です。南アルプスの自然を未来に残すため、少しでも多くの分野の方々のご協力を、心から期待するものであります。

増澤 武弘（ますざわ たけひろ）1945（昭和19）年生まれ。理学博士。東京都立大学大学院博士課程単位取得・静岡大学大学院理学研究科・特任教授。ユネスコエコパーク（BR）登録検討委員会委員長。植物生態学・極限環境科学（極限環境に生育する植物の生き方についての研究）が専門。富士山や南アルプスなど静岡県内の高山帯での高山植物の研究をはじめ北アルプス・ハケ岳・北海道の山岳地帯さらに北極圏・ヒマラヤ・アンデス・南極大陸と広域にフィールドワークを続けている。主な編著書に「高山植物学」（共立出版）／「高山植物の生態学」（東京大学出版会）／「極限に生きる植物」（中央公論新書）／「生態学への招待」（開成出版）／「南アルプスお花畑と氷河地形」（静岡新聞社）／「富士山・自然環境と植生」（静岡県）／「世界遺産の自然の恵み・富士山」（文一総合出版）／「南アルプス・地形と生物」（静岡県）ほか

平成 26 年度自然公園関係功労者環境大臣表彰 受章者

南アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 救助隊長 西村 和美



自然環境の保護を後世に

1964年、私は南アルプス北部山岳救助隊に入隊し、南アルプスも国立公園に指定され、共に50年の歳月がたちました。南アルプスの山々を愛し、安全登山への啓蒙及び救助活動を隊員と供に精進してまいりました。

振り返ってみますと、救助隊が発足した頃の隊員の服装や装備品は少なく、ハーネス一つにしても購入はかなりの痛手でした。ザックも横に広く、ブッシュの中の歩行は大変でしたが、現在は全てが良くなりました。発足当時のレスキューは、全てが3千mの山から救助者を背負い、搬送しました。夜中も背負続け、朝、家族の待つ所まで搬送した事も何回かありました。過去のレスキューは大変でしたが、現在の救助活動はヘリコプターが主となりました。

また、山の自然環境については、今後はそれなりに課題が残ると思いますが、やはり登山者のマナーが気になるところです。登山者が増加する今、山は泣いている状況にあります。これは、トイレ問題、高山植物が鹿により減少、雷鳥がオコジョ、キツネにより減少、登山者のストックで登山道が荒れてきている、まだほんの一部ですが今後どのように対処していくか懸念される場所です。

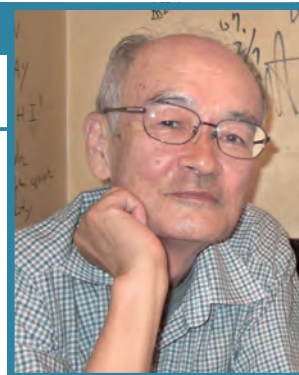
日々変化する社会情勢の中、自然を守り、自然と共存する知識や文化を後世に伝えていく私達の責務は、非常に重いものと認識しております。今後も美しく豊かな自然公園の保護を、地域に関わる多くの方々と共に、今後も一層努力していく所存であります。

我々救助隊は、遭難防止対策部として相談所を開設し、登山者への安全登山の啓蒙活動をしております。末筆ながら関係する各位の皆様方のご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げます。

西村 和美(にしむら かずみ)昭和20年生まれ。昭和39年に南アルプス北部救助隊へ入隊後、昭和61年6月～副隊長(7年間)、平成5年6月～隊長(21年間)を歴任。南アルプスにおいて、定期的なパトロールを行うなど安全登山への啓蒙、遭難事故防止に尽力。遭難発生時には陣頭指揮をとって救助にあたり、数多くの遭難者を救助し献身的な活躍をする。卓越した遭難救助技術、隊をまとめ上げる統率力等、隊員は元より山岳関係者からの信頼も厚い。

初代南アルプス自然保護官

元 環境庁官房審議官 瀬田 信哉



4月1日付で「南アルプス国立公園野呂川広河原地区管理員を命じられたので赴任されたし」との電報が、阿寒国立公園川湯駐在管理員宛に届きました。初代レンジャーたる私は野呂川が何処たるかも知らないまま、山梨県庁に出頭しました。

採用後の本省での見習期間中に焼岳が噴火し、上高地管理員のサポートに1ヶ月間北アルプスに駐在したものの、南アルプス入りは初めてでした。

北岳など南ア北部の山々は広河原小屋などを拠点に登山したものの、南部の連山単独縦走は躊躇していました。塩見岳に単独で資材を担ぎ上げて小屋を建てた齋藤岩男氏が南ア全域を案内すると名乗りを挙げてくれ、上高地の澤田氏、日本山岳会信濃支部長の奥原氏の4人で縦走しました。その時は梅雨期で塩見岳・荒川岳・赤石岳などは縦走したものの、食糧も尽きて下山。リベンジは齋藤氏と2人で畑薙ダムを出発して光岳から聖岳を経て、もう一つの広河原集団施設地区である小沢川を渡渉しました。ひたすら歩いただけの初代レンジャーでした。

縦走登山も往年のワゲルススタイルから変化し、同時に鹿による高山植物への壊滅的な被害など保全面の課題も大きく変化しています。これからの国立公園の使命は、行政的な対策に加え、市民活動との協働管理となります。関係する方々と一層連携し、共に楽しみながら南アルプス国立公園の自然を守り伝えてほしいです。

瀬田 信哉(せた のぶや)1938(昭和13)年大阪府生まれ。61年北海道大学農学部卒業後、厚生省国立公園部に入省。阿寒・南アルプス・中部山岳国立公園などに駐在。環境庁設立後は自然保護局の課長等を経て官房審議官で退官。(財)国立公園協会理事長などを歴任。現在 神宮境内地・自然保護委員会委員など。